

パパ・ママ子育て知恵袋

第17回は「いいね」より「やってるね」

大人だろうが、子供だろうが、ほめられて悪い気はしません。
ほめられる＝認められる ということですよ。

ほめ方の上手な人がいます。
実によいタイミングで、ピタリとはまる言葉をかけてくれる人がいて、
「私もあの人のような、ほめ上手になりたいな」と思うわけです。
ですが、なかなか、思うようにはできません。
ほめようと思って、口から出た言葉に、自分でも「薄っぺらいな～」と悲しくなることがあります。

子供を動かすのが、実に上手な先生がいます。
授業中、席を離れていた多動の子がイスに座った。 「お、座ったね」
なんとなく漢字練習帳を出した。 「練習帳を出したね」
鉛筆をもった。 「ふむふむ、鉛筆をもった」
漢字を一文字書いた。 「書いたね」
すると、練習を始めた。 「3文字書いたね」
一回もほめていないのに、子供は着席して、一つの漢字を3回練習できました。

先生は、ほめていませんが、事実を認めています。
静かな声で、その子にしか聞こえないくらいの声で、できたことをそのまま
「見てたよ」という認める言葉かけをしています。
認める言葉かけならば、すぐに真似できそうです。

「ほかの子は10文字練習していますが、あの子は1文字しか、それも3回しか練習していないじゃないですか」
という指摘に、この先生は
「その通りです。でも100%できる完璧な子なんかいません。
25%できればよいと思っています」。
このクラスには、ゆったりとした空気が流れています。

こういうことを川口市の「子ども発達相談センター 愛称『るるる』」の方から教えてもらいました。パパママの相談も受付中だそうです。

子ども発達相談センター 048(259)9048